

平成 20 年度 年度計画（概要）

公立大学法人名古屋市立大学

教 育

～地域社会及び国際社会に貢献することができる人材を育成します～

- (1) 教養教育及び学部教育を横断的に履修し、持続可能な社会について体系的に学修できる学部横断的履修コースに、「次世代育成プログラム」を設置
- (2) TOEIC、TOEFL（英語についてスピーキング能力とライティング能力を同時に測定するテスト）等の検定試験成績による単位認定を実施
- (3) 医学部、薬学部及び看護学部の連携による合同教養カリキュラムを実施
- (4) 医学研究科修士課程において、研究・教育の実効性を高めるための修士論文の具体的手続を策定し、就職対策を検討
- (5) 全学的な教養教育を積極的に推進するための組織を新設し、教養教育の改革に取り組む
- (6) 外国語教育充実のため、外国人教員を増員
- (7) 認証評価機関による評価を勘案した教育に関する自己点検・評価を全学で実施

学生支援

～学生・大学院生が学びやすい環境の醸成に努めます～

- (1) インターンシップ（学生が自らの専攻や将来の職業に関連した就業体験を行う制度）の単位化を実施
- (2) ボランティアの単位化を実施し、地域との連携を強める
- (3) 4年生の就職内定状況を的確に把握し、内定が取れていない学生に対して十分な支援を実施

研 究

～時代や社会の要請に対応した研究活動を着実に推進します～

- (1) 複数の海外大学からの招へい講師による環境をテーマとする国際ワークショップを開催
- (2) 本学研究の特色化（研究テーマの選択と重点化）に向け、環境問題、国際共同研究プロジェクトなどに対して特別研究奨励費を配分
- (3) 研究成果の評価を実施
- (4) 大型研究資金の獲得に向け、他大学との連携を推進し、共同申請を行う

社会貢献

～市民・地域社会・企業との協働により社会が抱える課題の解決に取り組みます～

- (1) 総合情報センター（図書館）を、全開館時間において市民が利用できるようにする
- (2) 教員の健康・医療等の専門技術を活かし「健康教育研究推進センター」において「高齢者の健康づくりのための地域ボランティアリーダーの養成に関する調査研究事業」を引き続き実施するとともに、平成 19 年度セミナー受講者のフォローアップを行う
- (3) 糖尿病、心臓・高血圧、脳卒中、認知症の予防と治療に関する教室を開催

国際交流

～地域の国際化への寄与や国際社会への貢献を果たします～

- (1) 「国際交流推進センター」において、国際交流を推進

- (2) 20年8月に開催予定の「NAGOYA環境デザイン国際会議」において、欧米・アジアの大学から教員及び学生を招へい

附属病院

～市民の皆様が安心して受けることができる医療を提供します～

- (1) 東市民病院との電子カルテの連携システムの稼働を行うとともに、東部及び西部医療センターの開設準備に協力
- (2) 医師会等関係機関と連携し、地域医療機関のニーズを把握し、対応等を検討
- (3) 災害拠点病院として大規模災害時におけるマニュアルを整備し、大規模災害を想定した訓練を実施
- (4) 研修医・コメディカル（医療関係技術職員）の教育プログラムに基づき教育研修を実施
- (5) 地域がん診療連携拠点病院および肝疾患診療連携拠点病院の指定を受け、腫瘍センターや肝疾患相談センターなどを設置

業務運営等

～教職員の意識改革とともに運営体制の着実な改革を推進します～

- (1) 教員倫理綱領、職員倫理規程、倫理行動指針等を全教職員に周知徹底
- (2) 山の畑キャンパス将来計画検討委員会において、施設整備、自然科学系学部の創設、既設の学部・学科の再編等について調査検討
- (3) 経営改善努力の成果が還元できるよう目的積立金を財源として投資を行い、収益の獲得等に努める
- (4) 一般駐車場、駐輪場、地下鉄桜山駅から外来診療棟までのアプローチ整備及び病院敷地内の植栽整備のための工事を実施
- (5) 名古屋市が誘致をめざす生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）の開催に向け、積極的に協力

平成20年度予算

(単位:百万円)

区 分		金 額
収入	運営費交付金	8,525
	自己収入	19,350
	授業料及び入学金検定料収入	2,364
	附属病院収入	16,550
	雑収入	436
	施設整備費補助金	4,024
	受託研究収入等	980
	計	32,879
支出	業務費	27,175
	教育研究経費	1,833
	診療経費	9,641
	人件費	15,701
	一般管理費	700
	施設整備費	4,024
	受託研究費等	980
	計	32,879